

# 1 気象統計に見る信州の冬～気象予報士からの解説～



## 最低気温の極値\*で見る

\*極値：ある期間に観測された最大値、最小値を  
気象庁では「極値」と呼んでいます。

### 冷え込まなくなった都市部！

#### 最低気温の極値を 観測史上 1位～3位 と 2000年以降の1位で比較！

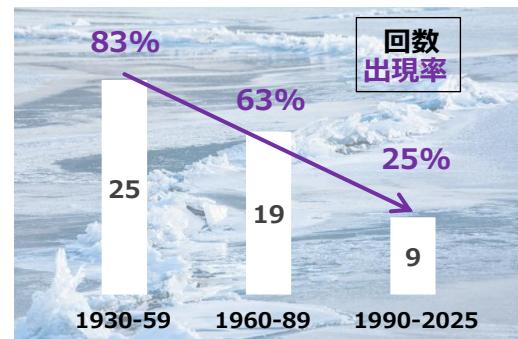
[統計期間] 長野：1889年～ 飯田：1897年～ 松本：1898年～ 軽井沢：1925年～ 諏訪：1945年～

	観測史上 第1～3位=A			2000年以降=B		増減	
	第1位(観測年)	第2位(観測年)	第3位(観測年)	第1位(観測年)	B-(Aの平均)		
長野	-17.0℃ (1934)	-16.5℃ (1945)	-16.4℃ (1936)	-12.0℃ (2001)	+4.6℃		
松本	-24.8℃ (1900)	-22.9℃ (1913)	-21.8℃ (1913)	-14.1℃ (2005)	+9.1℃		
飯田	-16.5℃ (1954)	-15.9℃ (1906)	-15.3℃ (1906)	-12.2℃ (2012)	+3.7℃		
軽井沢	-21.0℃ (1936)	-20.3℃ (1931)	-20.2℃ (1945)	-18.6℃ (2012)	+1.9℃		
諏訪	-23.1℃ (1947)	-23.0℃ (1981)	-22.4℃ (1947)	-17.8℃ (2001)	+5.0℃		

観測史上の上位は5都市とも、地球温暖化が顕著になる1990年以前の記録です。これら(A)の平均と2000年以降の第1位(B)を比べると、+1.9℃～+9.1℃と高くなっています。県内の温暖化は、冬の朝の冷え込みに対して顕著に影響が出ていることが分かります。緑地の減少、建物の密集、暖房用のエネルギーの増加などを原因とした都市部のヒートアイランドの影響もあります。

### 諏訪湖の御神渡りが「まぼろし」に？

湖が全面結氷して氷が盛り上がる現象で、厳しい冷え込みが続くと出現する「御神渡り」。室町時代の1443年から570年以上の記録が残されており、長い間、ほぼ毎年出現してきましたが、近年、温暖化の影響で激減し、最後に見られたのは2018年です。



### 平年値で見る

#### 信州の冬は短くなっている

気象の平年値とは30年間の平均値で、10年ごとに見直されます。現在使われている平年値は、1991年～2020年の平均値で2021年春から使われています。過去の平年値と比較すると気候変動の影響が分かります。



#### 平均気温の平年値（℃）を50年前と現在で比較！

[統計期間] 50年前=1941～1970年／現在=1991～2020年

	年平均気温			2月			3月			10月		
	50年前	現在	増減	50年前	現在	増減	50年前	現在	増減	50年前	現在	増減
長野	11.3	12.3	+1.0	-0.9	0.4	+1.3	2.9	4.3	+1.4	13.2	14.4	+1.2
松本	11.0	12.2	+1.2	-1.0	0.6	+1.6	3.1	4.6	+1.5	12.4	13.9	+1.5
飯田	12.2	13.1	+0.9	1.2	2.3	+1.1	5.0	6.1	+1.1	13.8	15.0	+1.2
軽井沢	7.7	8.6	+0.9	-4.4	-2.6	+1.8	-0.6	1.1	+1.7	9.5	10.5	+1.0
平均			+1.0			+1.5			+1.4			+1.2

県内の温暖化は、年平均気温では50年で約1℃となります。

ところが、春先の2月、3月をみると、+1.4～1.5℃と年平均よりもかなり早いペースで温暖化が進んでいることがわかります。秋では、初霜の時期である10月の温暖化が+1.2℃と大きくなっています。

温暖化の影響で、それだけ冬が短くなっているとみることができます。

【文責】宮澤 信（気象予報士）